

あやべ 市議会だより

No.137

2022年(令和4年)
5月発行



《写真》公園で泳ぐこいのぼり(上延第2公園)

**一人ひとりの夢や希望を実現する予算を可決
補正予算と一体化で、安全・安心施策を推進**

令和4年3月定例会を2月25日から3月24日までの28日間の会期で開催しました。

本定例会では市長から提案された議案46件を審議しました。議案は、いずれも原案のとおり可決・同意したほか、議会から提案した議案3件を可決しました。(採決の結果は5ページに記載)

上程された議案は、3つの常任委員会に付託され審査しました。その内容は次のとおりです。

予算決算委員会

令和4年度当初予算・令和3年度補正予算 ～コロナを乗り越え、一人ひとりの夢や希望を実現する予算～

●予算審査のあらまし

予算決算委員会は、当初予算及び補正予算の審査を2月25日及び3月14日から18日までの5日間にわたり行いました。

付託された議案は令和4年度当初予算11件(一般会計1件・特別会計7件・公営企業会計3件)、補正予算2件(一般会計1件・特別会計1件)と令和3年度補正予算11件(一般会計3件・特別会計4件・公営企業会計4件)の計24件です。

なお、3月11日に総括質疑を行い、12人の委

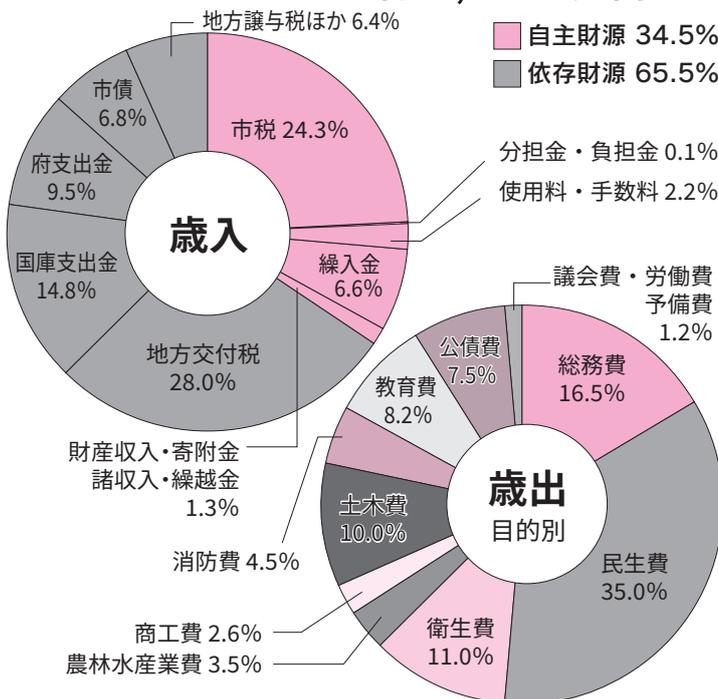
員から26件にわたる質疑がありました。

●令和4年度当初予算の内容

一般会計の予算規模は、180億8,914万円 で前年度対比8.0%増の過去最大規模となっています。さらに、特別会計7件(総額91億4,187万円、0.4%増)と公営企業会計3件(総額126億968万円、1.2%減)を合わせた全11件の規模は398億4,070万円となり、前年度対比3.2%増の予算が編成されています。

令和4年度 歳入歳出の状況(一般会計)

《歳入・歳出》180億8,914万円



新年度予算の主なもの

●一般会計予算

医 職 教育・情報発信

- 地域子育て支援拠点施設整備事業費(9,353万円)
- 地域交流センター整備事業費(1億8,706万円)
- 新図書館整備事業費(2億8,727万円)
JR綾部駅北側に、雨天時の子どもの遊び場や子育て世代の交流の場、コンベンション機能を持つ地域交流センター、図書館を複合施設として整備し、子育て環境の充実を図るとともに、企業、各種団体等の活動や生涯学習を推進する。

住

- 新都市公園整備事業費(1,254万円)
旧市民センター跡地に都市公園を整備し、様々な世代の人々が集い、新たなにぎわいを生み出す場所として、都市空間の充実を図る。
- 特定地域づくり事業協同組合活動事業費(850万円)
人口の減少や高齢化の進行等による労働力不足の課題に対応するため、地域の様々な仕事への人材派遣を行う組合の運営に対する支援を行う。

■ 主な意見

審査では、執行部からの説明に対し、委員が質疑を行い、その後、意見調整と採決を行いました。各委員の主な意見は以下のとおりです。

■ 一般会計

- 定住サポート拡充事業を評価する。コロナ禍の中、田園回帰の流れが進んでいる。綾部市への定住希望者の誘導のため更なる促進を図りたい。
- あやべ市民大学開催事業により、学びのきっかけづくりが推進されることを評価する。この学びが市民を巻き込み、今後のまちづくりにつながることを期待する。
- 子育て世代の交流の場や子育て相談を備えた地域子育て支援拠点施設整備が行われることを高く評価する。ニーズを活かした便利な利用方法が進むことを期待する。
- 保育士等養成支援事業を高く評価する。課題となっている保育士の人材確保に期待する。
- 新生児に対する聴覚検査の実施と乳幼児期における弱視の早期発見、早期治療を図るための屈折検査機器の導入を評価する。
- ドローンやIT機器を活用し農林業に新しい仕事を創造するとともに、活用効果によって作業の効率化

や収穫・安全性を向上されたい。

- 森林経営管理推進事業については、職員の専門性の向上、専任職員の配置を充実されたい。
- 販売促進キャンペーン事業を評価する。ネット媒体の更なる活用により、綾部市の商業の底上げに努められたい。業者・市民が公平に潤う内容を検討されたい。
- 新都市公園整備事業を高く評価する。様々な世代が集い、人と人との触れ合いや新たなにぎわいを生み出す公園の整備に期待する。また、雨天時でもイベントが開催できる屋根の設置など、市内の既存の公園では果たせない機能を有する公園として整備されたい。
- 消防団員の報酬改定等を高く評価する。更なる消防団員の処遇改善と、消防団員の確保に努められたい。
- いじめの未然防止のため、いじめ防止対策推進事業費の拡充で、地域や家庭、関係機関との連携を密にされたい。

■ 市立診療所等特別会計

- 更なる地域医療の充実を図られたい。

■ 農林業者労働災害共済特別会計

- 農林業者の生活の安全と福祉の増進を図られたい。

■ 国民健康保険特別会計

- 人間ドック受診率の向上を図られたい。

■ 介護保険特別会計

- 高齢者が住み慣れた地域で尊厳を持って豊かに暮らすことができる地域社会の形成に期待する。

■ 後期高齢者医療特別会計

- 10月から窓口負担1割が2倍化する高齢者が全体の2割ある。受診抑制につながらないよう動向を注視するとともに、負担増に反対すべき。

■ 駐車場特別会計

- 財政的観点や用地の有効活用の観点からも、駐車場の適正規模を検討し、不要な用地の売却や他用途への転換など、総合的な土地利用を検討されたい。

■ 住宅・工業団地事業特別会計

- 住宅分譲地の早期の完売を図られたい。

■ 上水道事業会計

- 広域化の協議内容は、十分な情報開示を行うこと。また水道は公共の福祉が目的であり、民営化につながる施策は実施しないこと。

■ 下水道事業会計

- 長年の地域要望であった古川樋門周辺への浸水被害を軽減するための綾部雨水ポンプ場の供用が開始されることを大いに評価をする。

■ 病院事業会計

- 更なる医師確保を図られたい。

● 令和3年度補正予算の内容

一般会計3件と特別会計4件、公営企業会計4件の合計11会計で補正を行い、総額3億2,051万円の増額となりました。

一般会計では、農業施設雪害対策事業費として、6,664万円の増額、小・中学校施設維持管理費として1,250万円が増額、また新型コロナウイルス感染症対策費として508万円が増額されました。他に事業費の確定見込みによる補正です。

● 審査の結果

採決の結果、令和4年度一般会計の1議案は賛成多数となり、これを除く23議案は全員賛成で可決となりました。

なお、本会議での採決に際しては、賛成多数となった議案に対し、吉崎 久議員から反対、松本幸子議員から賛成の立場で討論がありました。

(6ページに要旨を掲載)

●綾部放課後学級に2学級増設

綾部放課後学級の入級希望児童の増加に伴い、新たに2学級を増設するため、所要の改正を行おうとするもので、それぞれ35名を定員とするとの説明がありました。

質疑の中で、「定員は全体で210名でよかったか。春休みのみ、冬休みをみの預かり人数を含めて、この定員という理解でよいか。さらに、春のみ、冬をみの児童は別で開級すると理解したらよいのか」との質問に対し、「定員は210名で、春のみ、冬のみは通常の学級に入ってもらう。夏のみは増えるので、綾部、中筋、豊里は定員を超えることになり、その際は臨時的に空き教室を利用することになる」との答弁がありました。

特に意見もなく、採決の結果、全員賛成で可決となりました。

●新規8路線、変更1路線を認定

地元自治会からの認定申請があった道路や開発により建設された道路など、8路線と変更1路線について認定をお願いしようとするものとの説明がありました。

質疑の中で、「市道認定申請される路線に

よって、用地整理に係る地元負担が異なるが、不公平感はないか」との質問に対し、「申請前に地元で用地整理をしていただくことになっているため、過去に用地整理がされておらず、新たに整理が必要な路線は、地元負担をしていただくしかない」との答弁がありました。

意見として、「認定した市道の舗装改良や除草等管理にあたっては、費用対効果を検討し、他の市道との均衡・優先順位等に配慮すること」とありました。

採決の結果、全員賛成で可決となりました。

その他、8議案について審査を行い、採決の結果、全員賛成で可決となりました。



市道認定の現地調査（旭新ノ谷線）

●綾部市人権尊重のまちづくり条例の制定

人権尊重のまちづくりの推進について、基本理念を定め、市と市民等の責務を明確にするとともに、人権教育や啓発、相談・支援体制の充実を図るため条例を制定しようとするものとの説明がありました。

質疑の中で、「『同和問題（部落差別）をはじめ』とあるが、同和問題を重要視するのではなく、他の人権課題も同様に取り組むのか」との質問があり、「同和問題は、我が国固有の重要な人権問題である。本人には何の責任もないが、不平等、不利益を強いられ、自由と平等が侵害されるという不合理な人権問題である。他の人権課題も同様に差別を受けた一部の人の問題ではなく、差別する側の問題として全ての人が考えていくべき社会的課題であり、地方公共団体の責務であると位置付けている」との答弁がありました。

意見として、新しい課題として、ジェンダー平等、パートナーシップにも積極的に取り組むこと。同和問題をはじめ各種の人権問題が

存在しており、理念を示した条例の制定により、広く市民に周知し、人権尊重のまちづくりを進められたいとありました。

採決の結果、全員賛成で可決となりました。

●綾部市保育士等就学資金の貸与に関する条例の制定

保育士及び保育教諭の人材育成及び確保を目的として、本市において保育士及び保育教諭の業務に従事しようとする者に対し、養成施設等の修学に要する資金を貸与するため条例を制定しようとするものです。

質疑の中で、「2名分の予算となっているが希望が多い場合の対応は」との質問があり、「希望者の多い場合はその時の状況で検討していきたい」との答弁がありました。

特に意見もなく、採決の結果、全員賛成で可決となりました。

その他、6議案について審査を行い、採決の結果、全員賛成で可決となりました。

《 全員賛成で可決・同意した議案》

件 名		結 果
議第1号	人権尊重のまちづくり条例の制定について	可 決
議第2号	保育士等修学資金の貸与に関する条例の制定について	可 決
議第3号	功労者表彰条例の一部改正について	可 決
議第4号	UIターン者定住支援住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正について	可 決
議第5号	一般職員の育児休業等に関する条例の一部改正について	可 決
議第6号	市長等の給与及び旅費に関する条例の一部改正について	可 決
議第7号	教育委員会の教育長の給与等に関する条例の一部改正について	可 決
議第8号	一般職員の給与に関する条例の一部改正について	可 決
議第9号	会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正について	可 決
議第10号	地域生活支援事業に係る利用者負担金の徴収に関する条例の一部改正について	可 決
議第11号	放課後児童健全育成事業の実施に関する条例の一部改正について	可 決
議第12号	国民健康保険条例の一部改正について	可 決
議第13号	特定用途制限地域内における建築物等の用途の制限に関する条例の一部改正について	可 決
議第14号	病院事業の設置等に関する条例の一部改正について	可 決
議第15号	消防団員等公務災害補償条例の一部改正について	可 決
議第39号	国民健康保険条例の一部改正について	可 決
令和4年度当初予算		
議第17号	市立診療所等特別会計予算	可 決
議第18号	農林業者労働災害共済特別会計予算	可 決
議第19号	国民健康保険特別会計予算	可 決
議第20号	介護保険特別会計予算	可 決
議第21号	後期高齢者医療特別会計予算	可 決
議第22号	駐車場特別会計予算	可 決
議第23号	住宅・工業団地事業特別会計予算	可 決
議第24号	上水道事業会計予算	可 決
議第25号	下水道事業会計予算	可 決
議第26号	病院事業会計予算	可 決
令和3年度補正予算		
議第27号	一般会計補正予算(第10号)	可 決
議第28号	病院事業会計補正予算(第2号)	可 決
議第29号	一般会計補正予算(第11号)	可 決
議第30号	国民健康保険特別会計補正予算(第4号)	可 決
議第31号	介護保険特別会計補正予算(第3号)	可 決
議第32号	後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)	可 決
議第33号	駐車場特別会計補正予算(第1号)	可 決
議第34号	上水道事業会計補正予算(第2号)	可 決
議第35号	下水道事業会計補正予算(第2号)	可 決
議第36号	病院事業会計補正予算(第3号)	可 決
議第42号	一般会計補正予算(第12号)	可 決
令和4年度補正予算		
議第40号	国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	可 決
議第41号	一般会計補正予算(第1号)	可 決
その他議案		
議第37号	市有財産の無償貸付について	可 決
議第38号	市道路線の認定及び変更について	可 決
人事案件		
同第1号	公平委員会委員の選任について	同 意
同第2号	固定資産評価審査委員会委員の選任について	同 意
同第3号	監査委員の選任について	同 意
諮第1号	人権擁護委員の候補者の推薦について	同 意
議会提案の議案		
決議第1号	ロシアによるウクライナ侵攻に対し平和的解決を求める決議	可 決
議会第1号	市議会委員会条例の一部改正について	可 決
議会第2号	市議会会議規則の一部改正について	可 決

《 賛否が分かれた議案》

※議長は採決に加わっていません。

(賛成：○ 反対：×)

件名・結果	議員	民 政 会					創 政 会			共 産 党		公 明 党	心 友 会					
		安藤和明	本田文夫	酒井裕史	種清喜之	松本幸子	片岡英晃	藤岡康治	高橋輝	渡辺弘造	柳原秀一	梅原哲史	搦頭久美子	吉崎久	井田佳代子	中島祐子	森義美	塩見麻理子
議第16号	令和4年度一般会計予算	可決	○					○				×		○	○			

討

論

反対

日本共産党

吉崎 久

何よりも命・暮らしを守る予算へ

コロナ感染収束のめどが立たない中で、人の移動自粛と緩和の繰り返しで、人も経済も疲弊している。今自治体に求められることは、地方自治法でうたう「住民の福祉の増進」での予算計上こそ必要だ。市民の声をよく聴き、施策に反映することが必要だ。反対の理由は、

第一に、国のコロナ地方創生臨時交付金は何よりも命・暮らし応援に重点配分すること。

第二に「自治体DX」は個人情報保護に万全を尽くすこと。

第三に、人権啓発推進事業の団体補助金は、新たな差別を生むもので、直ちに廃止すること。

第四に来年10月から始まるインボイス制度には、反対の声を上げること。

賛成

民政会

松本 幸子

過去最大規模の予算編成

令和4年度当初予算は、国の経済対策を積極的に活用し、3月補正予算と一体化することにより、市民の命を守る安全・安心施策を推進する予算であり、過去最大規模となる180億円台、前年度対比8・0%増として、財政調整基金の繰入は財政計画の枠内を堅守し、市債発行額も抑制し、地方債残高を減少させている。厳しい財政状況の中、アフターコロナを見据えた将来への種まきと、先送りしていた事業を確実に実施する夢や希望を明日へと繋ぐ予算編成を大いに評価する。

予算を通すことは、市民の生命と暮らしを守ることに。全ては市民のため！ふるさと綾部を愛するなら全議員の賛成一致を期待する。

議第16号
令和4年度綾部市一般会計予算

同意した人事案件

●監査委員の選任

岡垣 美樹 さん（福知山市大江町）＝新

●固定資産評価審査委員会委員の選任

久木 圭史 さん（駅前通）＝再

●公平委員会委員の選任

森津 一男 さん（八津合町）＝再

●人権擁護委員の候補者の推薦

山本 みさ子 さん（西町二丁目）＝再

令和4年6月定例会の日程予定

6月定例会は、6月13日から7月1日までの19日間の会期で予定しています。

6月13日(月) 本会議(議案上程)

20日(月) 請願受理締切り(正午)

21日(火)~23日(木) 一般質問

24日(金) 総務教育建設委員会

6月27日(月) 産業厚生環境委員会

28日(火) 予算決算委員会(総括質疑)

29日(水) 予算決算委員会(予算審査)

7月 1日(金) 本会議(採決)

決議第1号

今般のロシアによるウクライナへの軍事侵攻に対し、日本で初の世界連邦都市宣言を行った綾部市議会は、世界の恒久平和実現を目指す世界連邦運動の精神に著しく反するとして決議を行った。決議文は下記のとおり。

ロシアによるウクライナ侵攻に対し平和的解決を求める決議

2月24日に始まったロシアによるウクライナへの軍事侵攻は、明らかにウクライナの主権及び領土の一体性を侵害し、武力の行使を禁ずる国際法及び国連憲章の重大な違反であり、国際秩序の根幹を揺るがすもので、断じて容認できない。

また、ロシアは原子力発電施設等への攻撃に加え、プーチン大統領は、今回の軍事侵攻に際し核兵器の使用を示唆するような発言をしている。このことは、世界の恒久平和の実現を目指す世界連邦都市宣言の精神に反するもので強い憤りを覚える。

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻に対して厳重に抗議するとともに、ロシアは即刻ロシア軍による攻撃を停止し、ウクライナから完全撤退するよう、また、関係国政府においては一日も早い平和的解決に向けた外交努力を行うよう強く求める。

以上、決議する。

令和4年3月8日

京都府綾部市議会

在ウクライナ日本国大使館へ救援金を

綾部市議会議員親交会ではウクライナに平和が戻り、ウクライナ国民の皆様が、これまでどおり自由で民主的な社会の中で安全安心に暮らせる日が来ることを心から願い救援金を送りました。

日曜議会の報告

3月6日に開催しました日曜議会は延べ17人の皆さまにお越しいただきました。また、インターネットのライブ中継ではたくさんの方にご覧いただきありがとうございました。新型コロナウイルス感染症予防に努めながら議会を開催しております。開会中、いつでも傍聴できます。ぜひお越しください。

議会情報公開条例に基づく公文書の開示実施状況

令和3年4月1日から令和4年3月31日までの公文書開示請求はありませんでした。議会に関する情報開示については、議会事務局（電話42-1259）へお問い合わせください。

市政を問う

市長4期目の主な施策は

民政会 本 田 文 夫

Q 山崎市長は、4期目の公約として初心を忘れず住んでよかった綾部を目指して、一人ひとりの夢や希望を実現するため5つのキーワード別に多くの未来予想図をお持ちのようだが、その主な施策は。

A 第6次綾部市総合計画に基づく施策を推進するとともに、引き続き、医・食・住・教育・情報発信を施策推進のキーワードとしてウイズコロナ、アフターコロナを見据えつつ持続可能な綾部市を築いていく。

Q 令和4年度当初予算は、過疎法の活用、防災・減災など国の経済対策を積極的に活用した3月補正予算との一体化により安全・安心な施策を加速的に推進する14か月予算として編成されているが、その概要と主な事業は。

A 子育て支援や移住定住を推し進めるとともに、市民に寄り添い、ここに住んでよかったと思っていただけのような施策の展開を目指して、一人ひとりの

夢や希望を実現できる予算としたところである。一般会計の当初予算は、過去最大規模となる180億円台で、行政課題に対応する施策に重点的に配分を行った。

Q 西部地域に西部分駐所を設置すれば、志賀郷・物部地区だけでなく東西八田・吉美・豊里地区の一部は、本署から救急出動するより早く現場到着できる。若い世代から要望が多いが、西部分駐所設置の考えは。

A 西部地域は、近年少子高齢化が進むとともに、救急件数も中部・東部地域に比べ増加傾向であるため、西部分駐所の設置について検討の必要性を感じている。



創政会 柳 原 秀 一

駅周辺のまちづくりについて

Q 災害やコロナ禍で先送りした将来の種まきとなる事業として、綾部駅北では長年の課題であった図書館、地域子育て支援拠点施設、コンベンションホール機能を備えた複合施設整備事業が大きく進展している。

また、立地適正化計画においては、綾部駅南でも旧市民センター跡地での都市公園整備や、駅南の規制市街地内での住環境整備について検討を進められ

ようとしている。そこで、綾部駅周辺のまちづくりを今後どのような方向へ進めようとしているのか。

A 綾部駅北側では、工場の整備統合などにより生じた土地などを活用し、多くの都市機能を綾部駅周辺に集積したところである。

令和2年度に策定した立地適正化計画においては、駅周辺での都市機能集積を踏まえた上で、コンパクト&ネットワークの考え方に基づいて、綾部駅

3月6日から8日の3日間にわたって15人の議員が市政全般について質問を行いました。なお、6日は「日曜議会」を開催し、各会派の代表3人が質問を行いました。ここでは代表質問と一般質問の要旨を掲載します。
(掲載は登壇順)

Q 市内で救急車の到着時間が長時間かかる地域がある現状を踏まえ西部地域の救急に対してどのような構想をお持ちか。

A 中心とする区域を都市機能向上エリアに定め、都市拠点としての機能充実を図っていくこととした。駅北複合施設をはじめ、今後必要な都市機能の維持や不足している都市機能の整備などを計画的に進めていきたいと考えている。また、まちなか居住の推進のための検討なども具体的に進めていきたい。

コロナ感染拡大の中、市の役割は

日本共産党 搦頭 久美子



Q 新型コロナウイルス第6波で死亡者が急増。保健所業務がひっ迫し従来の業務ができない状況。この現状と市長の見解は。

A 市の感染者の85%が1月以降の数で、感染が進むことによる医療へのひっ迫も懸念される。国・府・市が連携して難局を乗り越える。

Q 医療・学校・保育園等の職員へのPCR定期検査実施を求める。現場では濃厚接触者の特定から健康観察まで任せられ、一週間の自宅待機後、検査も無く解除されることに疑問が出ている。

A 市立病院では定期検査はしていない。幼稚園、学校、放課後学級に検査キットを配布しているが定期検査用ではない。

Q 綾部にも京都府の無料PCR検査場が設置され歓迎されている。設置の経緯は。

A 京都府に開設の要請を行うと同時に、薬剤師会等へ協力をお願いをしてきた中、一事業者からバスに

A 救急車の現場到着時間の平準化を目指すことが必要と考えている。今後、西部地域に分駐所を設置する必要も感じている。

よる検査場開設の申し出があり実現した。

Q 感染症対策の要となる保健所業務のひっ迫は、保健所復活を減らしすぎた結果では。増員と綾部に

A 国では保健所の保健師を現行の1・5倍に計画されている。保健所復活等の体制は府で検討されるものと考えている。

Q 市内経済の見通しは様々な調査からも厳しい。事業者への家賃支援給付金や税免除、事業主が感染した場合の補償制度などの考えは。

A 国や府、市において状況に応じた支援に努めてきた。引き続き関係機関と連携し、事業者に寄り添った支援に努める。



再稼働反対とヨウ素剤事前配布を

日本共産党 中島 祐子



Q 東京電力福島第一原発事故から11年を迎えるが、地域の復興は非常に難しく困難な状況である。市として原発再稼働反対の

姿勢を今こそ明確にすべきでは。

A 再稼働は国が安全性の確保に責任を持つて対応すべきだが、市としては市民の安全・安心の確保は最優先すべきと認識しており、法的枠組みの確立、避難計画の実効性の確保などを繰り返し国等へ要請したい。

Q 福井県は原発事故時の甲状腺被ばくを抑える安定ヨウ素剤を、30キロ圏内の子どもや妊婦などを対象に、希望者に事前配布する方針を示した。事前配布を府に求めたことがあるか。

A 市では国の指針に基づき国からの服用指示を受け、避難や一時移転の際に、迅速に備蓄場所から持ち出し、医師・薬剤師の協力を得て、避難経路に面した公共施設で配布する計画としており、府に事前配布を求めたことはない。

Q ロシアのウクライナ侵攻で改めて原発の危険性が明らかとなった。米原市などでも事前配布に取り組んでいる。本市もヨウ素剤の事前配布に取り組むべきでは。

A 紛失や誤飲、必要でない時期に服用されることなども考えられ、これまでどおり府と連携しながら国の指針に基づく事後配布が妥当と考えている。

本市のデジタル化への対応状況は

民政会 酒井 裕史



Q 国内では官民でデジタル化が急速に進みつつある。今後、デジタル化が進むとデジタルデバイドの問題がある。本市ではデ

ジタルデバイスド解消に向けたにスマホ体験教室を実施しているが、参加状況と参加者の感想は。

A スマホ体験教室を15教室で実施し、61人が参加された。参加者のアンケート結果では「一分りやすくとてもよかった」など、前向きな感想をいただいた。今回の意見を基に体験教室の内容も更に充実させていきたい。

Q 令和4年度当初予算に多くのデジタル関連のものがあり、新しく使用方法を覚えなないといけないものがあると思う。そういったデジタルシステムへの市職員の対応は。

A 講習会や意見交換等に積極的に参加して研修に努めている。今年度は新たにDX推進委員を各課に任命し、デジタル化に向けた意見の提案を行っている。

Q コンピュータのシステムは非常に便利な反面、情報漏洩やハッキングによる攻撃の危険性があるが本市のセキュリティ対策は。

A 綾部市情報セキュリティポリシーで情報資産を取り扱う全ての職員が遵守する規範を定め、インシデント発生時には、京都府やネットワークベンダーと連携して緊急時の連絡体制も確保している。

なんでも相談できる窓口の設置を

日本共産党 井田 佳代子



Q 社会福祉協議会の生活困窮者自立支援制度による相談窓口には、途切れることなく生活困窮の相談がある。聞き取りを

していくと、複数の問題があることが多く、子育て、介護、多重債務、仕事の問題、8050問題、所持金が100円、今食べるものがない方もおられると聞く。面接のための洋服がない方のために対応もされている。困窮の原因は多分野にわたる。こういった状況把握はされているのか。

A 生活困窮世帯の相談の対応状況は、綾部市社会福祉協議会、綾部市、ハローワーク綾部、京都市立就労サポートセンターが参画する支援調整会議を月1回開催し、困窮世帯の自立に向けた自立支援プランを具体的に検討する中で情報共有を図っている。令和4年2月開催の会議で、令和3年度4月から12月末までに、社会福祉協議会の窓口で生活困窮や貸付に係る相談が731件あったとの報告を受けている。

Q 社会福祉協議会では、コロナ以前から、ぎりぎりの生活をしている人が多いとされているが、潜在的な生活困窮者が安心して相談できる市の窓口が必要では。

A 社会福祉協議会を中心に困窮者が抱える複合的な課題に対応いただいている。市は、社会福祉課で対応している。

民政会 松本幸子

コロナ禍での教育現場の状況は



Q 新型コロナウイルス第6波でオミクロン株が出現してから保育園・幼稚園・小学校・中学校の現時点での学級閉鎖等の数は。

A 幼稚園は臨時休園・学級閉鎖ともに1園1回。小学校は臨時休校5校5回、学級閉鎖・学年閉鎖5校20回。中学校は臨時休校1校1回、学級閉鎖・学年閉鎖2校6回。保育所等は臨時休園2園、特定クラス閉鎖2園。

Q 3学期は、進級・進学を控えた大事な時期であり、心理的な面も心配であるが、学級閉鎖や臨時休校による学習面の遅れへの補充は。

A 一日の学習時間を1時間拡大するなど時間割の工夫や休校中には、学習プリントの配布やタブレットのオンライン学習の取組を実施した。

Q 市立病院受付待合室では、保険証返却時や診察代支払時、名前を呼ばれても聞こえにくいという声をよく耳にする。個人情報保護の観点からも、薬局に掲示されているような番号表示板を設置できないか。

A 耳の不自由な方であることが分かる工夫をし、受付の最前列に案内したり、お願いカードを身に付けてもらうことにより、職員が対応できるようにしている。他にも、無線振動呼出し器を準備している。番号表示は、混乱が生じるおそれがあるため採用していない。

創政会 梅原哲史

生活困窮者の早期の把握状況は



Q 生活保護に至らないよう、その前段階で支援する生活困窮者自立支援制度の自立相談支援事業を綾部市社会福祉協議会に委託している効果と課題は。

A 効果は、これまで築いてこられたネットワークを通じて、制度案内や周知ができること、対象者の早期発見、把握につながることである。課題は、コロナウイルス感染症拡大の影響による相談件数の増加及び面談に配慮がいることである。

Q 就労、心身、家計、家族問題が複雑に絡み合い、生活困窮者の目指す自立には経済的な自立のみならず日常生活における自立や社会生活における自立も含まれる。生活困窮者自立支援制度を知らない方が多く、待ちの姿勢となり水際作戦とならないよう、早期に生活困窮者を把握し、課題がより深刻になる前に問題解決を図る必要がある。民生児童委員との連携における早期支援の取組状況は。

A それぞれの地域で住民の立場に立った相談や必要な援助が行われている。具体的には、歳末助け合い運動での年越し支援金の配付がある。こうした日常の活動や支援の中から、生活に困っている人を早期に発見し、顔の見える関係性を生かして、その方の状況に応じて必要な支援機関につなげていただいている。

民政会 藤岡康治

清山荘の内装を改装してはどうか



Q 長引くコロナ禍で疾患や持病を持っている多くの高齢者が引きこもりがちになっている。清山荘の施設管理者から20人程

A 清山荘は昭和62年度にオープン以来介護予防につながる重要な施設と位置付けている。令和2年度には屋根の改修を行った。畳の件も承知しており、長寿命化、利便性向上のため財政状況をみながら必要な整備を計画的に進めていきたい。

Q 60歳代でも利用できるような新たな仕掛けは。

A 60歳代の全体に占める割合は定年延長などによる雇用形態の変化もあり、1割未満。コロナ禍で全体的に減少傾向にある。仕掛けづくりは指定管理者と連携し取り組みたい。

Q 吉美放課後学級について、運営母体からの受託辞退申し入れを受けて、今後の運営体制は。また、将来小学校の空き教室への移転は。

A 多田第1放課後学級、桜が丘第2放課後学級は市が直営で行う。移転は、今後検討していく。

除雪困難な高齢者について問う

創政会 渡辺弘造



Q 今年も本市も数十年ぶりという大雪に見舞われ、各地で雪による農業施設被害、家屋被害が多く発生した。改めて被害に

遭われた方にはお見舞いを申し上げます。今後は、地球温暖化により海水温の上昇から水蒸気が発生し、大陸の寒気団により冷やされ、ドカ雪が発生する確率が高まると言われています。そのような中、高齢者の除雪困難者が増えてきている。近隣も高齢化で共助も難しい中、行政としても救済措置が必要になってきていると思うが、本市としての考えは。

A 地域の除雪に対しては自助、共助、公助のバランスが重要と考えるが、高齢化による自助、共助力が縮小する中で、コロナ禍も重なり、以前に比べ地域のコミュニケーション力も低下していることを危惧している。

そのような中で高齢者の不安の解消と、安全確保のため限られた予算の中ではあるが、住民税非課税世帯であって高齢者世帯や障害者世帯に対して、除雪費用の一部について補助を行っている。

また、毎年雪かきボランティアの募集も行っているが、現在のところ活動を要請した実績はない。

子ども政策をど真ん中への考えは

心友会 塩見麻理子



Q 駅北に子ども拠点施設が出来て、吉美こども園も園舎が新築される。放課後学級も吉美小学校で行う方向で拠点整備を行い、デ

ジタルを駆使し市の拠点とつなぎ、子ども政策の一元化と同時に、ハード・ソフト両面の未来への投資は。

A 社会福祉法人吉美福祉会（経営母体吉美地域）が、令和5年竣工予定で新園舎を建設。国も子ども政策の一元化に対応する子ども家庭庁が閣議決定された。子どもや家庭は大事、各部署十分連携しながら組織運営においても取り組みたい。

Q 都市計画に関連して吉美地域には、未来予想図を描く組織まちづくり協議会がある。どんぐりの家の移転計画の承認や土地の有効利用を考える重要な組織だが、インフラ整備や農地・沿道ゾーンへの対応など多岐にわたる。市としての期待や役割は、また行政的な支援が更に必要だが考えは。

A まちづくり協議会の大きな役割に、地区まちづくり計画の策定があり、地域のみなさんの議論で、より良いまちづくりが進むことに期待している。吉美地区の特定沿道地区は綾部ICの側で市街地にも近い優位な立地で、土地利用の可能性を確保しておきたい思いである。まちづくり協議会を通じて考え等をお伝えしていきたい。

中学校で発生のおいじめ重大事態は

創政会 高橋輝



Q 府教育委員会が府内公立小中学校、高校などを対象に実施したいじめ調査の結果が報告され、綾部市で状況が深刻な重大事態

が1件報告されたがその内容は。A 市内の中学校で発生した重大事態は、子どもの人権を守るため詳細な答弁は出来ないが、現在はいじめ行為はやみ、被害生徒は通常の学校生活を取り戻しつつある。

Q 今回の案件は、いじめの相談を受けたときにしっかりと対応しておけば、この重大事態は未然に防げたのではないかと学校の対応は。

A 今回の事態を教訓に、いじめの訴えはもちろんのこと、どんなささいなものであっても真剣に受け止め、速やかに教職員相互において情報交換し、適切かつ迅速な対応を図れるよう、今後も徹底したいと考えている。

Q 相談体制と見守り体制ができる環境をどのように行っているのか。市内中学校へのサポート体制をどのように整えているのか。また、学校に対する保護者の声をクレームとして処理することなく、教育委員会として、今後のしつかりとした対応策は。

A いじめ問題など、学校の状況把握に努め、適切な指導に努める。各学校と十分連携をとりながら、取り組みたいと思っている。

民政会 片岡 英 晃



Q 令和3年度も新型コロナウイルス感染症対策に追われた一年であったと思うが、6つの重点目標を柱として、教育に取り組

組んでこられた。令和4年度は、今年度の経験を基にこれまでの考え方を踏襲しつつ、新しい時代に合った教育の提供が求められると考えるが、令和4年度の教育方針は。

A 感染症対策は引き続き必要と考えるが、子どもたちが綾部で育つことに誇りと自信を持ち、将来に夢を持って生きていけるように家庭、地域社会、関係諸機関等と連携した社会に開かれた教育課程により、キャリア教育を軸とした綾部スタイルの一貫教育を推進していきたい。

Q これまで学校教育では、学力を高めることに注力してきた。しかし、これからの時代には、学力以外に自律と尊重が必要と言われ、今まで以上に子どもたちに本当に必要な能力は何か考えて、実践していく必要がある。本市の教育での取組状況は。

A 自分らしい自分の生き方を探求するキャリア教育の視点で全ての教育活動を行い、一人ひとりの社会的、職業的自立に向けて、必要な基盤となる資質、能力の育成に努めているところである。また、愛のある学習を着実に実践することで、人間力の向上につながると考えている。

日本共産党 吉崎 久

感染拡大防止のため検査の拡充を



Q 第6波の感染拡大は猛威を振るって、収束の見通しもつかない。2月24日から週2回無料検査場が開始され、歓迎されている。

A この事業の計画は。府の事業で、無症状者の検査環境整備として実施中。計画は、3月末までの予定。今後は感染の状況によつての対応と聞いている。

Q 感染症における公衆衛生の基本は何か。予防・検査を含めた早期発見が必要と考えるがどうか。

A 予防対策は、手洗い・消毒、マスク着用、密を避ける等が基本。検査も重要。

Q 濃厚接触者の範囲が狭められている上、保健所判断でなく現場に任せられているがどうか。

A 厚労省で定めている基準は変わっていない。京都府が示すチェック表を用いて、事業所等で調査を実施している。

Q 多くの皆さんが感染の不安を抱えておられる。やはり一層の検査拡充が必要ではないか。

A リスクの高い高齢者施設等で週1回検査を行うなど拡充してきている。

Q 命を守ることは行政の第一の責務。市長選挙で「全体の財政規律と継続性についてどう考えているのか。」と発言されたが、現在の認識は。

A 命を守ることは最大の責務。しかし必要な資源を有効に使うことも極めて重要と考えている。

民政会 安藤 和 明

里山交流研修センター建設促進を



Q 鍛冶屋町の里山交流研修センターの建設については、農村都市交流を通じた関係人口の創出を図るため再整備するとの説明だが、本事業を推進している里山ねっと・あやべの活動内容はどうか。

A 本市の恵まれた自然環境、歴史、風土など優れた地域資源を活用して、里山空間が持つ里山力、人材力、ソフト力で、都市農村交流から定住促進に向けて、各種事業に取り組んでいる。

Q 広報を通じて都市農村交流事業の重要性を周知し、多くの市民を巻き込んだ取組とすることが重要だと考えるが、市民や地元の豊里地区などを巻き込んだ連携事業などはあるのか。さらに、里山交流研修センター建設事業の解体事業を含めた総事業費や事業内容、また、新施設の運営開始はいつ頃になるのか。

A 連携事業の例としては、荒れていた古道や小畑城の環境整備を地域と協働で行い観光交流資源として再生し、地域への誘導を図った。総事業費は約3億3千万円で、令和5年4月オープンを予定。施設解体後は、新たに里山交流館を建設、既存施設の有効活用で新施設の規模を最小限に抑え、新施設には宿泊機能を確保し、コワーキングスペースなど、デジタル化社会にも対応。

次世代からのメッセージ

～東綾中学校生徒会～

(令和4年3月取材)

第5回「次世代からのメッセージ」は東綾中学校を訪問し、生徒会役員の方々の声を聞いてきましたのでご紹介いたします。



生徒会役員としての希望や決意は

- ・リーダーとしてみんなを引っ張っていきたい。
- ・生徒を引っ張り、みんなに頼られるような役員になりたい。
- ・自分が積極的に取り組んで、専門部や学校を引っ張っていけるようにしたい。
- ・全校が健康に過ごせるようにする。
- ・生徒会役員の一員になったからには、どんなことでもあきらめず全校生徒の模範になるような行動をできるようにしていく。
- ・学校のリーダーとして学校をよりよくするために、みんなで協力して頑張っていきたい。全校生徒の手本となるようにルールなどしっかり守る。
- ・みんながしっかり挨拶できるようにする。図書室の利用者を増やし、親しめるイベントや楽しい放送、例年ない取組などを行いたい。

綾部のどんなところが好き

- ・緑がたくさんはえている。
- ・自然、川がきれい。毎年、やな漁があり魚もおいしい。
- ・自然が豊かなところ、窓からの景色が好き。
- ・自然が多いところ。
- ・地域それぞれの行事があり、歴史や郷土史が好き。
- ・近所の人優しく、登下校で話をしたり野菜のやり取りなど心が温まる。

綾部に住み続けたいですか？

- ・自然がきれいで住みやすいし、地域の人々が支えてくれる。
- ・都会に行きたいから。
- ・一人暮らしするなら福知山とかに住みたい。
- ・綾部よりたくさんの会社があるから。
- ・不便だし都会に行って仕事がしたい。
- ・買い物に時間がかかる。20代、30代は都会へ行き、結婚をして子どもを産んだらUターンも選択肢の一つに。

はい 2人 | いいえ 4人

綾部に欲しいものは？

- ・あまり外出しないので特にない。
- ・専門店があるショッピングモール
- ・大型のショッピングモール ・バッティングセンター
- ・遊具のある公園 ・コンビニ

将来の夢、どんな職業に就きたいの？

- ・IT系の職業 ・看護師 ・警察官。人の命を守りたいから
- ・まだ決めてないけれど人の役に立つ職業
- ・自分もやっていて楽しく人の役に立てる仕事に就きたい

取材を終えて

男女ともに仲の良い生徒会役員の皆様でした。将来の夢が明確な人もそうでない人も、人の役に立ちたいなど立派な夢があり、自分が中学生の時には何も考えていなかったなど恥ずかしくなる思いでした。都会の便利さや憧れは抱きつつも、ふるさと綾部への想いをしっかりと感じる事ができ、皆様の今後の活躍に大きな期待を抱きました！夢にときめけ！明日にきらめけ！

編集後記

令和4年3月定例会では、山崎市政4期目のスタートを切る令和4年度の当初予算が上程されました。「コロナを乗り越え、一人ひとりの夢や希望を実現する予算」ということで、一般会計は過去最高額、全会計の予算額も過去3番目となる積極予算となり、賛成多数で可決されました。市議会といたしましても、綾部市の明るい未来につながるよう各事業が適正に実施されているか、しっかりとチェック機能を果たしてまいります。また、市議会として広報活動のみではなく、広聴活動の取組として、5月に各自治会連合会単位で市民と議会のつどいを開催させていただき、ご意見ご要望などをお聞かせいただきました。これからも引き続き、身近な議会となるよう努めてまいります。

編集／広報広聴委員会

◎種清喜之 ○井田佳代子 中島祐子 藤岡康治 梅原哲史 柳原秀一 本田文夫 安藤和明 (◎委員長 ○副委員長)